

中国遼寧省派遣交流職員レポート①

皆さんこんにちは。

私は今、友好交流職員として中国遼寧省にある瀋陽市というところに来ています。滞在が終わる来年3月まで何回かに分けて、みなさんに遼寧省のこと、中国での生活や文化についてレポートしていきたいと思います。

○ 遼寧省の場所と街並み ○

まず、遼寧省とはどこにあるかご存知でしょうか？

朝鮮半島の北西、北京から見ると北東の方角にあります。

日本と同様、この辺りは東北地方と呼ばれており、私の住んでいる省都の瀋陽市は北海道の函館市とほぼ同緯度で、冬は-20度近くまで冷え込むとのことですよ。



遼寧省の位置



私の住んでいる近くの街並み

大型のスーパーや、小さな服屋、電気屋、レストランなどが並ぶ通りで、道端には服、装飾品の露店や羊肉の串焼きなどを売る屋台が並び、歩くととてもいいにおいがします。

今この文章を書いている10月末時点では、もうすっかり寒くなってきており、道端の露天商ではもうダウンジャケットなどが並んでいます。来たばかりの9月初旬はまだ暑く、半袖でも日中は汗ばむくらいでしたが、気温の変化はあっという間です。



車から見える風景

中国に来て驚くのは、道路の広さと建物の建物の大きさ！

車線は3車線、4車線が当たり前です。頻繁な車線変更、クラクションの応酬に大忙しです。

建物は巨大で数が多いのに、土地が広いせいかまばらに見え、空が広く見えます。

○ 瀋陽市内のみどころ ○

遼寧省にはいくつも見どころがありますが、今回のレポートでは、瀋陽市にある観光スポットを紹介します。

〈瀋陽故宮〉

まずは、瀋陽の世界遺産の一つ、瀋陽故宮です。

故宮というと、北京にあるものが有名ですが、昔の宮殿という意味なので、北京以外にもあります。

清朝初期には瀋陽に都が置かれており、17世紀初頭に清朝の開祖であるヌルハチとその息子のホンタイジによって建てられました。

門をくぐるとかつての宮殿の姿が偲ばれるような色鮮やかな建物が青空に映えるように立ち並んでおり、石畳の道を歩くとまるでタイムスリップしたかのようです。



色鮮やかな建物がいくつもあり、青空に映えて綺麗です。



玉座



大政殿（皇帝が執務を行う部屋）
遊牧生活時代のテントと同じ八角形をしています。



お土産売り場や屋台にもぎわっています

<昭陵>

ここは、昭陵と呼ばれる、先ほど紹介した宮殿を建てたヌルハチの息子、ホンタイジのお墓です。

瀋陽の中心から北にあるため「北陵」とも呼ばれており、北陵公園という豊かな木々や池のある広大な公園を併設しており、瀋陽っ子の憩いの場ともなっています。

子供たちが親に連れられ、露店でお菓子を買ってもらったり、追いかけてっこをしている光景があちこちで見られます。

石造りのいかめしい門をくぐるとまるで宮殿のよう。

昔は皇帝が亡くなると、死後も同じように生活ができるよう、宮殿と同じ建物を建てたり、生前使っていたものと同じものを副葬する習慣があったようです。



ホンタイジのお墓

城壁を抜けた先にあります。埋葬されている場所には土が盛られています。



ホンタイジ像

いかめしい顔つきと堂々とした体格で強そうです



入口



宮殿のように城壁に囲まれています。皇帝が死後も生前と同じように過ごせるように作られています。

○ 中国の季節行事（中秋節） ○

日本の秋の風物詩といえばお月見ですが、中国でのお月見は、旧暦8月15日（2015年は9月27日）中秋節の祝日に行われます。

テレビでは、式典やお祝いの歌・ダンスなどのパフォーマンスがいろいろなチャンネルで放送されます。

私が今通っている瀋陽師範大学でも、中秋節の式典がありました。



中秋節式典での留学生によるパフォーマンス

民族衣装と伝統的なダンスはとても綺麗でした。

日本ではお月見にお団子を食べますが、中国では月餅を食べます。

本場の月餅を見て驚いたのはその大きさと厚さ！ナッツや胡麻などもたっぷり中に入れており、食べごたえ十分です。

遠く離れた中国と日本で、同じように丸いものを食べながら、同じ美しい満月を見ているというのは、文化の伝播の歴史とそれを脈々と受け継ぐ流れをなんとなく想像させ、スケールの大きさを感じさせます。



月餅

中には様々な具がたっぷり詰まっており、食べごたえ十分。一つでお腹いっぱいになります。

今回のレポートは以上です。次回のレポートをお楽しみに！！